

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	美奈見ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローク
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。またこの【オノマトペ】は乳児にも取り組みやすいテーマではないかと考えました。

## 2. 活動スケジュール

【問いかけ】保育者が動物の鳴き声について問いかけた。「この動物はなんて鳴くか知っている?」「動物園で何て鳴いていたか聞いたことがある?」さらに、「エム先生は英語の先生だけれど、英語でも同じ鳴き声なのかな?」と尋ねた。

すると子どもたちは、「エムせんせいね、えいごしかしゃべれないんだよ。でもね、どうぶつさんのこえはおんなじだよ!」と話した。

【流れ】英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、動物以外の擬態語や擬音語《オノマトペ》の入った英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また自由遊びの時間に保育者が日本語で動物の鳴き声の入った歌を歌い、英語講師は子どもたちと一緒に参加します。また皆で一緒に英語で使っている絵カードで《オノマトペ》遊びをします。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。

【探究活動の実践と記録】英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

\*読み聞かせ:2歳児クラス、5歳児クラス\*歌:2歳児クラス、5歳児クラス

\*カード遊び:2歳児クラス、5歳児クラス\*英語で工作:5歳児クラス

【振り返りや共有】毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境設定】 英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

- \* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"
- \* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード
- \* 英語のオノマトペ絵本："Mr. Brown can moo"、どうぶつなきごえ図鑑
- \* 2024年度に使用した英語の絵本："The very hungry caterpillar","Today is Monday"



#### 4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

\* 2歳児クラス、5歳児クラス：同じメロディーで日本語と英語の歌があることから、英語講師がいる時に「ゆかいな牧場」の歌を2歳児、5歳児クラスで日本語で保育者が歌ってみました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

2歳児クラスはパネルシアターで親しんでいる曲ということもあり、一緒に歌って楽しんでいました。5歳児クラスも知っていたようで声に出し繰り返しの歌詞の部分より大きな声で歌っていた。その際、出てくる動物の鳴き声に注目するよう声をかけた。

#### 4-①. 探究活動の実践（英語）

<活動の内容>①「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。英語のオノマトペの絵本"Mr.Brwon can say moo!"を英語講師が読み聞かせる。

\*2歳児クラス、5歳児クラス：英語講師が2歳児クラスで使っていた「ゆかいな牧場」のパネルシアターをしながら「Old McDonald」を歌ってみました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

2歳児クラスはいつも保育者が行っているパネルシアターを英語の歌で行っていた為、すぐに違いに気づいていたが、言語が違うということに気づいたのかは不明だが、動物の鳴き声の歌詞の部分を「違うよ～」と英語講師に話す子もいた。

5歳児クラスは言語の違いに気づき、英語では歌詞が違うことを理解しているものの、動物の鳴き声自体が違うことは分かっていない様子だった為、保育者が鳴き声の部分に注目できるような声をかけると、どう違うかの発言がたくさん出てきた。また、英語の絵本の読み聞かせでは、色々な生活音の英語でのオノマトペを知らせることで似ているものもあることや表現の仕方が日本語と英語で違うことに不思議がっていた。



#### 5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

**【振り返り】** 2024年度からの続きで、同じメロディを日本語と英語で歌ってみることで、違う部分や、同じ部分を子どもたちが気づくようになってきた。動物の鳴き声を日本語と英語で比較してみたり、どのようなオノマトペがあるのか、それは日本語と英語でどのように違うのかなど、英語と日本語の違いに興味を持つ場面が増えてきた。

**【次回への問い】** 英語のレッスンで使用しているカードをレッスンで使う場合と、自由遊びの中で同じカードを使うことで、子どもたちは英語をより発するようになるのか、またどのようにカードを使って活動するのだろうか？

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>②英語レッスン中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う

\*2歳児クラス、5歳児クラス：英語のレッスン中に動物の絵カードを使って動物の鳴き声を言ってみました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

2歳児、5歳児ともに英語のレッスン中ということで英語講師が英語で鳴き声を言った後に真似して英語で言っていた。講師や保育者が日本語でなんと表すか子どもたちに尋ねると2歳児でも日本語の動物の鳴き声を言っていた。絵カードのほかに動物フィギュアを見せることでよりわかりやすくなった。英語講師が日本語と英語の鳴き声を両方言ってみると、5歳児は日本語の鳴き声のイントネーションを英語講師に教えてあげる姿があった。

4-②. 探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>②自由遊び中に"Animal"(動物)の英語絵カードを使う。英語と日本語のどうぶつなきごえを比較した後、本当の動物のなきごえを図鑑を通して皆で聴く。

\*5歳児クラス：英語絵カードを自由に使えるよう英語講師が不在の際に出してみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めは絵カードで日本語で鳴き声をつぶやく子が多かったが、「ゆかいな牧場」を歌い出す子があり、絵カードは普段は英語の時間にしか使わないため、英語の時間を思い出したのか、「英語の鳴き声はなんだったっけ？」と聞きにくる子がいた。

4-②. 探究活動の実践（日本語でも英語でもなく、本当の動物のなきごえは？）

<活動の内容>②自由遊び中に動物のなきごえ図鑑を使って本当の動物のなきごえを皆で聴く。

\*2歳児クラス、5歳児クラス：日本語と英語の動物の鳴き声の違いを知ったので、動物鳴き声図鑑を用いて本物の鳴き声を聞いてみました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

2歳児クラスは実際の鳴き声を聞いて言い表せないものは真似せずに聞いていて聞いたことがある鳴き声は日本語で真似していた。5歳児クラスは「犬の鳴き声はわんわんじゃなくてバウバウって聞こえるから英語に似てるね」「ブタの鳴き声はどちらでもないね」など日本語と英語の鳴き声の表し方がどちらの方が実際の鳴き声に近いかなど等比べる姿があった。



#### 5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】 探究活動ということで実際に動物園などで鳴き声を聞けるとよいが、そうもいかないで動物鳴き声図鑑を用いて確認したが、子どもたちはとても興味を持ち、あまり鳴くイメージのない動物や日本語でも英語でも表し方のない鳴き声にも鳴き声図鑑で確認するなどして知識として広がり良かった。

【次回への問い】 英語絵カードを違う種類にすることで、動物の鳴き声ではなく、また違うオノマトペに子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

#### 4-③.探究活動の実践（英語絵カードを自由遊び中に使う）

<活動の内容>③自由遊び中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

\* 2歳児クラス、5歳児クラス：乗り物絵カードを使って乗り物の擬音語を言ってみました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

2歳児はトラックは「ブーンブーン」電車は「ガタンゴトン」と知っている音で表す子がいたり「飛行機は遠くに飛んでるから音はしない」と感じた事を言う子がいて、「そうだね。遠くに飛んでいる時は聞こえないね。近くだったらどんな音かな?」とやりとりしていった。英語と日本語の擬音の違いはあまりわかっていない様子だった。

5歳児は英語と日本語の擬音の違いを認識しながらもその両方の音を楽しみながら口にしていった。飛行機の英語の擬音が「チーズを剥がす時の音に似てる」と感想を言う子もいた。

#### 4-③. 探究活動の実践（英語絵カードを英語レッスン中に使う）

<活動の内容>③英語レッスン中に"Vehicle"(乗り物)の英語絵カードを使う

\* 5歳児クラス：英語のレッスン中に乗り物絵カードを使って英語と日本語の擬音の違いについて聞いてみました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

自転車の擬音語は英語で「ティリンティン」やヘリコプターの擬音語など違う言い方に「自転車は日本語ではチリンチリンだよ」などと日本語の擬音を英語講師に教える姿があった。



### 5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】擬音語にも日本語と英語では違いがあることを知り、言語の面白さを感じていた。擬音語は日本語でも表す言い方が一つではないものもあり、子ども達の興味関心が更に深まったと感じる。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めて子どもたちとオノマトペの絵カード遊びを通して子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか。

### 4-④. 探究活動の実践（オノマトペ絵カード）

<活動の内容>④保育者、英語講師と一緒に絵カード遊びをする：絵を見て子どもたちが擬音語、擬態語を言う。英語講師も英語で擬音語や擬態語を言う。

\* 5歳児クラス：オノマトペの絵カードを使って、英語と日本語の両方の表現を言ってみました。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

オノマトペは日本語では2回繰り返す表現があることに対して英語ではそれが無いことに気が付いていた。（例えば熱い食べ物の表現で「あつあつ」というが「hohhot」とは言わないなど）誰かが気付いたことに「ほんとだ！すごい！」と発見があった。絵カード遊びではオノマトペを言いながらジェスチャーしてその様子を楽しむ姿があった。



### 5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】オノマトペ絵カードを利用する事でその絵に合ったオノマトペをわかりやすく伝える事ができた。更に英語と日本語で擬音語にも違いがあることや繰り返しの言葉は英語にはなかったことに子どもたちが気づき良い取り組みになった。

【次回への問い】幼児クラスは英語で工作の時間があり、英語レッスンで学んだ単語にちなんだ工作を毎月行っています。英語で工作の時は英語講師が英語で説明し、保育者も日本語通訳をせず、工作の見本と一緒に作りながら参加し、子どもたちを手伝います。2024年度に読んだエリックカールの絵本"The very hungry caterpillar"と"Today's Monday"を再度英語で読み返し、子どもたちが主体的に、自分の「1週間なにを食べる表」を制作してみてもどうか？工作を通して、食べ物への擬態語、擬音語への興味も深まっていくのではないかと。

#### 4-⑤. 探究活動の実践（英語で工作）

<活動の内容>①The Very Hungry Caterpillar、と Today Is Mondayの英語の読み聞かせを行い、その後自分の「1週間なにを食べる表」を制作する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

覚えた英単語を口にしながらメニュー表を作成していた。「noodle」など日本語でも言うが発音が違うことを面白がりながら英語の発音で言ってみたりしていた。



#### 5-⑤. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】絵本の読み聞かせや絵カード遊び、工作など様々な活動を通して英語と日本語の違いに触れ、名詞や動詞、感情を表す言葉など言語に対する探求心が深められたのではないかと感じる。

【次回への問い】子どもたちはことばには日本語も英語もあり、またそれ以外に様子を表す擬態語や擬音語もあって、しかもそれらにも日本語や英語特有の音があることに気づいたかもしれない。また園には日本語や英語以外のことばを話す友だちもいることから、日本語英語以外の世界についても興味を持ち探究活動が広げられるのではないか。